

# 加古川駅北自動車整理場の料金が改訂されました

加古川駅北自動車整理場について、料金体系が分かりにくい・料金の上限がないかなどのご意見が寄せられていました。議会からも利用促進や利用料金の周知徹底、上限設定などを求めてきましたが、このたび、料金が以下のように改訂されました。



## 普通自動車

最初の20分無料。以降30分ごとに500円。(20分超～50分：500円)  
24時間ごとの上限3000円

## バス

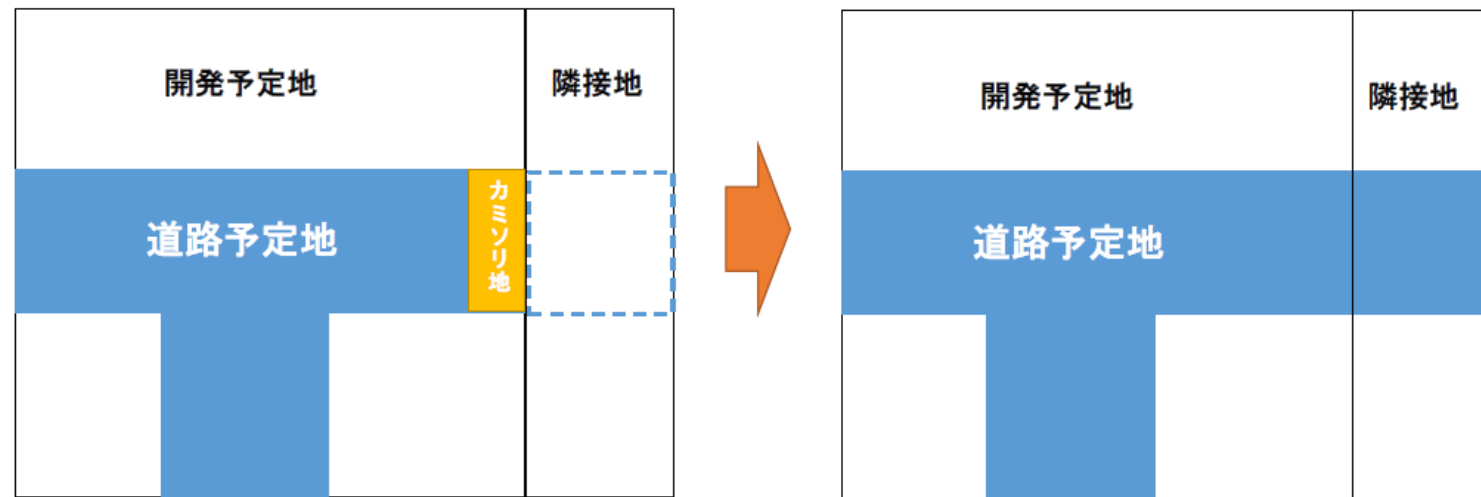
最初の20分無料。以降30分ごとに1000円。  
24時間ごとの上限6000円

# カミソリ地を原則として認めない方向へ

「加古川市開発事業に伴う公共公益施設整備基準」の改正が行われました。その中で、道路予定地について、「開発事前届の提出があった日の1年前から提出日までの間に所有者が同一であった土地で、私有地や私権の設定等によって利用目的のない未利用地を設け、将来開発区域内に設けられる道路の当該開発区域隣接地への延長や他の道路への接続に支障を及ぼす計画としてはならない」とされました。

道路予定地に接して利用目的のない未利用地があることによって、開発区域内に設けられる道路の隣接地への延長や接続に支障が出る事例が見られるため、その弊害を防止します。

防災上安全な通り抜け道路を推進することを目的とし、隣接地で将来的に開発が行われる際に通り抜け道路ができることで都市の健全な発展が見込めます。



これまではカミソリ地によって行き止まりが生まれていました。これを禁止することにより、将来的に隣接地が開発されたときに通り抜け道路ができるようになります。

# 市政報告の郵送ご希望の方へ

この市政報告は、基本的にポスティングと駅前等での配布となっております。郵送をご希望されます方は、ご遠慮なく下記までご連絡下さい。次回より、郵送にてお送り致します。(お名前とご住所を明記下さいませよう、お願い致します。頂戴した個人情報につきましては、厳重に管理を致しております。)

住所：加古川市加古川町北在家2000 加古川市議会 創政会 中村亮太  
TEL：079-427-9395 (会派控室) FAX：050-3156-1255 E-MAIL：info@ryotanakamura.com

# 加古川市議会 創政会 なかむら亮太市政報告

NO.29

発行日：2017年5月  
発行：加古川市議会  
創政会  
加古川町北在家2000  
079-427-9395

## 次世代に誇れる加古川のために

新年度を迎え、心新たに新生活をスタートされた方も多かったのではないのでしょうか。

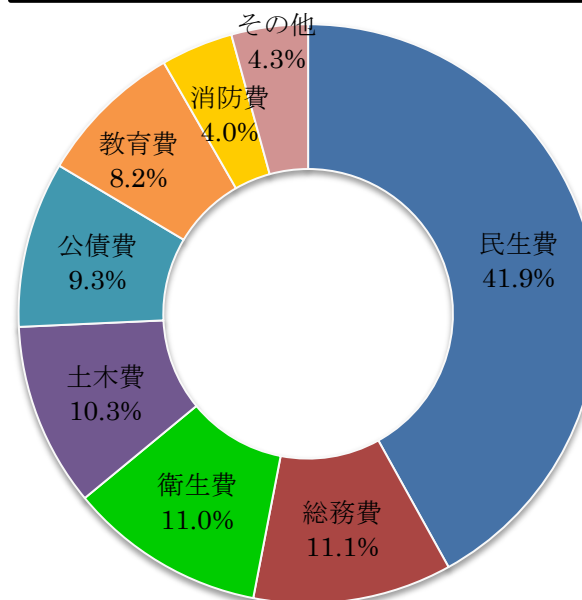
加古川市議会では3月議会が行われ、新年度予算をはじめとした53議案が審議されました。岡田市政も3年となり、様々な事業が進み出しています。それらがより効果的なものとなるよう、議会からも指摘や提案をした定例会でもありました。

未来に対する責任を果たすために、議会も常に前を向き、改革を進めていかねばなりません。



# 平成29年第2回定例会

## 過去最高額となる841億7000万円の一般会計予算が成立！



民生費 (353億104万円)：福祉全般のための費用

総務費 (93億3944万円)：市の事務を行うための費用

衛生費 (92億4696万円)：ごみ処理などのための費用

土木費 (86億3282万円)：道路や公園整備のための費用

公債費 (77億9986万円)：借入金の返済のための費用

教育費 (66億6358万円)：教育全般のための費用

消防費 (32億941万円)：消防・救急活動のための費用

その他 (34億372万円)：商工費・農林水産業費・議会費など

## どう見る？29年度予算

これまで伸び続けてきた民生費が、いよいよ40%を越えました。待機児童対策など子ども向けのほか、高齢化による影響が大きくなっています。また、見守りカメラなど防犯対策も拡充されたことで過去最高額になりました。必要な予算ですが、今後の財政運営も同時に注視していかねばなりません。

## 平成29年度予算に対して賛成しました

今回の予算案で大きく増額されているのが子育て関連の予算です。保育所整備では、待機児童が問題となる中で1000人規模の定員増を図るものですが、代表質問でもありました通り、平成30年4月時点での待機児童ゼロを目指した覚悟を示されたものと捉えています。提言をしたネウボラについても、東加古川サービスプラザへの拡大を行うことになっています。その他の事業も加古川の未来のために必要なものと判断し、採択しました。

# 注目の予算ピックアップアツフ

## 子育て支援

**拡**

### 保育所等整備事業

(事業費：31億182万円)

保育所の新設や定員増を伴う施設整備を行う事業者に対して補助を行い、待機児童の解消を図る。約1000人規模で定員を増やす予定。

### 待機児童の状況は？

昨年では、県下1位：明石市295人(+139人)、2位：西宮市183人(+107人)、3位：加古川市140人(-112人)でした。未だ多い状況ですが、減少数は県下1位でした。

今年度は集計中ですが、更に減少する見込みです。

**拡**

### 子育て予防接種助成事業

(事業費：1242万円)

おたふくかぜ2000円、ロタウイルス4000円の2種類を対象に助成を行い、子育て家庭の経済的負担を軽減し、疾病予防・集団感染予防を図る。

**継**

### 不妊・不育症治療費助成事業

(事業費：2400万円)

体外受精や顕微授精等の特定不妊治療、男性不妊治療を含む一般不妊治療及び不育症の治療に要した費用の一部を助成し、経済負担の軽減を図る。

## 地域振興

**新**

### 住民参加型映画プロジェクト事業

(事業費：2160万円)

住民参加型の映画製作を行う。制作過程に関わってもらうことや、観てもらおうことで、市の魅力の再発見や愛着の醸成に繋げる。

**継**

### クラウドファンディング活用促進事業

(事業費：600万円)

商品開発や商業振興を目的とした、新たな事業資金を必要とする市内事業者に対し、資金調達手法としてクラウドファンディングの周知と利用促進を図る。

## 市民協働

**新**

### 協働のまちづくり推進事業 補助金交付事業

(事業費：561万円)

市民活動バックアップ補助金をリニューアルし、自主的かつ公益的な活動を行う団体の事業経費を助成する。

**拡**

### 共通ポイント制度運営事業

(事業費：2013万円)

ボランティアポイント制度を本格実施するとともに、健康関連活動を加えた「健康ポイント制度」を開始する。健康診断の受診等でポイントを付与する仕組みを想定。

## 安全安心

**拡**

### ICTを活用した安全・安心の まちづくり推進事業

(事業費：2億9000万円)

犯罪の防止や事件事故の早期解決に繋げるため、見守りカメラ900台の設置や見守りサービスを導入する。

**拡**

### 災害情報伝達・収集システム整備事業

(事業費：3581万円)

災害時の情報伝達・収集について、V-LOW マルチメディア放送等を活用したシステムの構築を行うため、屋外拡声子局設置の設計や戸別受信端末の整備を進める。

# 代表質問～岡田市長に加古川の未来を問う～

## ◆質問項目

### 1. オープンと協働の推進について

#### Q：市役所一体となった協働は？

市長：これまで以上に住民同士の支えあいや、市民と行政の協働のまちづくりに中心的に取り組む組織として協働推進部を設置する。今後は協働推進部が旗振り役となって、全庁横断的に様々な施策に市民協働の概念を導入することにより、職員全体が協働に取り組むための意識改革を図ってゆく。そして市民満足度の更なる向上も目指す。

町内会やボランティア団体などに関係するご相談は、今後、協働推進部が窓口となります。

### 2. 子育て日本一について

私が平成22年に当選して初めて一般質問をした項目が待機児童対策で、その時の待機児童は11人だった。それから定員増を図ってきたが、待機児童は増加の一途を辿り、昨年度に250名を超して県下ワースト、28年度は140名と低下したものの依然として県下でも待機児童が多い都市となっている。国は、目標とした平成30年4月時点での待機児童ゼロは難しいと考えているが、加古川市としての見込みと、市長の意欲・方針を伺う。

市長：ここ2年間で945人の定員増を図ってきたが、核家族化や共働き世帯の増加により保育ニーズは増加傾向で、29年度当初では解消に至らない。そのため、29年度予算では約1000人規模の定員増を図るべく、施設整備に係る予算を大幅に拡充し、平成29年度末までの待機児童の解消に向けた取り組みを加速させたいと考えている。

「子育てするなら加古川市」と誰からも言われるよう、待機児童問題を早期に解決することは重要であり、市としては当初の目標を達成すべく全力で取り組む。

市長の強い意志とそれに伴った予算で大いに評価したい。PRもしっかりと行ってほしい。

### 3. 地域包括ケアシステム構築について

#### Q：具体的な数値目標は？

市長：地域包括ケアシステムでは、在宅医療と介護が切れ目なく提供される体制づくりが必要である。加古川市は生活の場で亡くなる方の割合が全国有数の高さだが、それは高齢者の生涯にわたる生活の場の確保に取り組んできた成果と考えている。また、高齢者の4割が在宅での看取りを希望されているというアンケート結果もあり、今後も生活の場で穏やかに最後を迎えたいという方は増えてくると思われる。

そのため、在宅医療と介護の連携を進め、「生活の場の看取り率4割」を指標として取り組んでいきたい。

初めて具体的な数値目標が明らかにされた。生活の場での看取りは、QOLの観点からも重要で、達成に向けて取り組みを推進してほしい。

#### QOLとは？～quality of life～

精神面を含めた生活の豊かさ。高齢者福祉では、生きがいや幸福感、終末期の迎え方などを指す。

### 4. 学校園の今後について

#### Q：少子化の進む学校園の後は？

市長：文部科学省の示す望ましい学級数に満たない学校が抱える課題について、今後は教育委員会とともに「まちづくりオープンミーティング」を開催し、地域の方々の意見をお伺いする中で共通理解を図りつつ、学校の地域コミュニティの核としての役割も配慮し、子どもたちにとってより良い教育環境となるよう検討を進める。

### 5. 命の大切さを学ぶことについて

教育長：自殺予防教育や子どもの心の安定を図る取り組みを強化する。組織的な対策を推進し、再発防止に努める。また、第三者委員会の調査結果については、報告を受け次第オープンにしてゆく。

その他、「中心市街地活性化について」「教育現場のオープンについて」を質問。詳しくは加古川市議会HPに掲載されています。